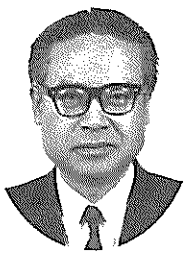
礫陵新聞

編集・発行
若松高校新聞部
北九州市若松区上原町15-13
TEL (093) 751-1911
印刷所
㈲秀文社印刷(883)1234

卒業生諸君へ

学校長　繁田治男



卒業生の皆さん御卒業誠におめでとうございます。歴史と伝統を誇る若松高校での三年間は諸君にとって大きな人生の糧であったと確信します。今、学校を巣立つにあたって諸君の胸は過ぎ去った思いと将来への夢や希望が交錯してることでしょう。

ところで、夢がある、希望があるということは、人間にほんとうに生きていることを実感させ、生存の充実感を与えてくれます。人間に夢も希望もなければ、現在いかに楽しみ、満足があっても、それは束の間のものであり、むなしさを感じさせるものです。人はたえず未来に目標を定め、それに向って一歩一歩進んでいかなくてはなりません。そして、その目標に向って前進していると感じられるとき、生活は充実し、本当の幸福が感じられるのです。諸君のように青年期にある者にとって、この未来性が特に重要な役割を果たすといえます。

「生きがい」という言葉があります。われわれ人間に、自分が生きている意味があり、生きているという存在理由を感じさせるものです。そして人間、特に諸君のような青年に生きがいを与えるのは希望なのです。希望・目的さえあれば人間は不幸のなかにあってもつよく生きていけます。現在が幸福でなくても、未来の展望が開かれていれば、明るい目標がありさえすれば、それに向って努力する過程において生きがいは感じられるのです。青年期にある諸君はその意味ではるかに生きがいをもちやすいのです。生活という現実や、過去という重荷に制約されることなく、ひたすら未来に自己の生存のすべてをかけていけるからです。そして未来を信じられる可能性がおとなよりはるかに大きいといえます。

現在の社会は、変革が大きく将来を見すことが極めて困難な状況にあります。諸君はこの不透明な未知なる世界に船出をしようとしているのです。

意外に多くの青年達が、自己の生活に満足を感じ、幸福であると云われています。経済的なゆたかさに加え現代の青年達の生活は、直接かれらの生活に干渉し、束縛や強制して青年の自由を拘束することは、昔にくらべてはるかに少なくなっています。そのため青年たちは、自分の人生は自分で選択し、自分の幸福、理想を目ざして努力していると思っているかもしれません。しかし、この目標や幸福は、久しく云われているように無気力・無関心・無責任など三無主義とか画一化とかいわれるように自分自身の内部からの意欲に根ざした主体的なものではないのです。外側から求められる一定の規格に自己形成をしているように思えます。自分から考えたり、価値判断することをやめて、世論とか、流行とか、主としてマスコミを中心とする第三者のつくり出した思考・判断・価値観をそのまま受けとめ、順応し同化しているように思われます。

自分の生活は生きるに値するものと簡単にきめてしまって、日常的な欲望や価値に心を奪われ、ひたすら物質的安定のなかに心のやすらぎを見出しているのではないでしょうか。「文明化した社会では大人は幼児化する」と言われていますが、そういった社会にあって人生や自己の生活・価値に対する疑いやペシミズム、倦怠すら感じなくなっているように思われます。

現在の青年のなかには、空虚感や不安を認識せず、あるいは不安やむなしさの根源となるべき自分自身を見失っているのではないか。流行・車・レジャーなど非本質的なものに逃避して、本来的な自己と世界への関心をすりへらし、盲目的な衝動に駆られているようにみえます。

卒業生諸君、諸君の双肩に将来がかかっているといっても過言ではありません。自己の生活の安定だけを目ざし、経済的な豊かさ、地位の向上など適度な幸福に満足するのではなくて、現在の社会のなかでなし得る精一杯の努力をして欲しいと思います。「何を目標にして生きるべきか」「人間の使命とは何か」「社会のために自分は何をなしうるか」「生きがいのある生活とは何か」などの質問にまじめに取り組む姿勢こそ必要だと思います。そしてそのことがまさに青年的な生き方と云えます。諸君が自分の生活を自問し、すこしでも本質的なものに近づくべく、毎日を力づよく生きていることの重みを感じることにこそ、ほんとうの充実と青年らしい生きがいがあるといえます。

先ず第一は「継続は力なり。」ということです。人生は一日一日の積み重ねです。一日一日をよりよく生きるために自分のしたいこと、しなければならないことを緻密に計画して慎重に大胆に続けて実行することです。このことは学問についてもあてはまると思います。

第二に「良さを伸ばせ。」ということです。これもよく言われていることですが、一人一人かけがえのない「良さ」を持っているはずです。この「良さ」を伸張させ、長い人生に対して力強く充実した日々を送って欲しいものです。そこから自主的な生活態度も生まれ、生きる喜びも湧いてくると思われます。

第三に「他人に対して深い思いやりと謙虚さを持て。」ということです。

人は皆他人とのつながりを持って生活しています。

思いやりのあるところに感謝の気持も湧いてくるでしょうし、奉仕の気持も湧いてくるものです。そこから人との強い結びつきも生まれてきます。また謙虚に他人の言を受け入れて充分にかみしめて自分のものにするところに自己の成長があるのではないでしょうか。

以上三つのことを述べてきましたが皆さんのこれからの人生の一つの指針にでもなれば幸いです。

皆さんの健闘をお祈りします。

新たな覚悟を

三年学年主任　手島政昭

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんと共に過ごした三ヶ年をここで少し思いおこしてみましょう。

入学間もない篠栗での集団宿泊研修、校舎内外の化粧直し工事、整然と行なわれた若高創立七十周年記念行事、寒風をついての持久走や縄跳びをした寒稽古。

二年次では長年の懸案であったグランド拡張と改修工事、六月に繰り上った体育祭、白銀の世界で雪とたわむれたスキー教室。三年次では北棟校舎外装工事。クラスの和を一層強めた山車作り、被服室の普通三教室への改修工事等々、若高の教育環境は以前とは見違えるほど整備され、種々の学校行事もスムーズに行なわれました。これも学校長をはじめ関係の方々の熱意と皆さんや先輩の方々の努力の成果だと思います。

これら諸々の工事、行事の一つ一つにも皆さんの思い出が刻まれていることでしょう。

さて、何はともあれ、皆さんも一人一人この過ぎ去った三年間には他人に言われぬ苦しみを体験し、幾度となくくじけそうになったこともあると思います。しかし、それらを何とか克服して「高校卒業」までこぎつけた皆さんの誠実な努力に対しては、改めて賞賛と拍手を贈り、その労をねぎらいたい気持でいっぱいです。

人の一生は木の年輪のように、また、竹の節のようにいくつかの折目があります。今、皆さんが迎えた「高校卒業」という節目は長い人生の中でも最も大事な節目と言えましょう。この時期に今改めて三年間の生活をふり返り、そこからそれぞれの進路に対して思いと覚悟を新たにすることが必要なことだと思います。

そこで私は皆さんの人生の先輩として次の三つのことを皆さんへの贐として贈りたいと思います。

いい出会い

教頭　川原茂敏

卒業するとある人は就職に、ある人は進学にと、各々が選んだ道を歩くことになるでしょうが、その各々の道を歩く過程で、いろいろな人との出会いがあると思います。このいろいろな人との出会いが、実は各々の人生に大きな意味を持つことになり、知らず知らず影響を受けているものです。

私も十代の終りから今日に至るまでに多くの出会いがありましたが、その出会いから多くの恩恵を受けました。特に印象に残っていることを若干述べて、贈る言葉にさせてもらいたいと思います。

一、北海道の友人

学生時代のはじめに、偶然にある学生寮に入寮することになりました。その寮の玄関で最初に声をかけてくれたのが彼でした。洛北の野にぽつんと建っている寮を見ていささか心細い思いがしている時でしたから、なんだかほっと救われた気がしました。彼が私に教えてくれたのは「歩く楽しさ」でした。もっとも、ちょっと歩けば名所旧蹟に行き当る京都であったせいもありますが、お互いに遊興費が乏しい学生であったことにもよるようです。

彼と歩いたなかで一番印象に残っているのは、苔寺と寂光院と東山あたりです。

苔寺には阪急の桂駅で下車、桂離宮の横を通って家のまばらな田園道を歩いて行きました。その当時は、境内を自由に散策することができ、微妙な色の変化を示す苔に心を奪われたものです。山門のそばに小さな茶店があって、緋の毛せんが敷いてある台に腰かけて、美味しい茶をすゝり、安部川餅を食べて空腹を満たすのも何とも言えない気持でした。

大原の寂光院は寮から三里あり、交通の便が悪いので徒歩で行きました。土曜日の場合は、日が暮れて帰着したものですが、山菜そばが安くてボリュームがあり、その上美味で、私たちには好都合でした。

東山あたりは、哲学の道から始まって清水寺までで

したが、この時はたいていい新京極で鯖すしと中華そばを食べ、ささやかな贅沢気分に浸ったものです。

二人は歩きながらよく語り合いました。故郷のこと、文学のこと、名所旧蹟の由来・歴史のことなど時を忘れたものです。今でも庭を愛好し、田舎路をぶらぶら歩きながら想いに耽ることが好きなのは、彼のお陰だと思っています。

一、ある国文学の先生

大学二年目の春、選択した国文学担当の先生は、佐賀県の唐津の生まれで、小倉の富野にも住んで居られたとかで、随分と目をかけてもらいました。講義が終って先生の研究室を訪ずれると、沢山の本に囲まれた部屋でコーヒーの御馳走をいただきながら、持論の文学論をよく聴きました。

専門は違っていましたが、ものの考え方に対する目を開いてもらったことは、ありがたいことでした。さらに忘れ難いことは、先生と交流のあった学者・評論家・作家・詩人など多くの文化人に引き合わせていただき、直接話を聴ける機会を与えて下さったことで、私の人生における歩き方や、考え方は、それ等の先生方の影響を受けたもので、なによりも得難いものと思います。

一、自動車学校の校長先生

昭和四十七年の夏に、通勤の必要から運転免許証取得のため自動車学校に通いました。その自動車学校で大変御世話になったのが、私の家の近くに住んで居られた校長先生だった。近所だからといって甘やかすことなく、厳しい指導をするように、常に担当の指導教官に指示をされたことで、今日の私があるのだと思っています。

免許証を取得するのに約二ヶ月を要しましたが、常に道路状況、人の動き、信号のない交差点などで、細心の注意を払って運転する習慣をしつけられました。今から考えると、私が無造作に運転していたら事故につながったであろう事例がいくつもあります。卒業する時、校長先生が「私があなたにしてあげられることは、事故を起こさない運転をする技術と習慣を教えてあげることだけです。」と言われた言葉が、いつも心に残っています。

一、英語教員の大先輩

私が最初に勤めた高等学校で、実に厳格な大先輩の先生と机を並べました。専門のこと、指導法のこと、教員としての心構えや使命についてあまりにも喧しく言われるので、正直に言ってその先生が煙たくて逃げ腰になったことがあります。でも、逃げれば逃げるだけ追いかけられる思いがして気が安まる暇がありませんでした。「よし！　あの先生に向って行こう。あの先生の持っておられる知識や指導技術など学び取ってしまおう。」と思って、私にできる精一杯の努力をしました。そうした態度がその先生の心に伝わったのか、「煙たい。恐い。」と思っていた先生が急に親しい姿に変わり、親切にいろいろな事を教えて下さいました。その後の高等学校で、英語の教員として、あるいは校務分掌の係として、少しでも役に立つことができたとすれば、その時の経験が私を支えてくれたのだと思います。

結びに

北海道の友からは、贅沢をしないで楽しむ心を。国文学の先生からは、幅広い考えの中から自分の考えを。自動車学校の校長先生からは、常に情勢判断を慎重に行って的確な対応する習慣を。そして英語の大先輩からは、逃げないで向って行く態度を学んだことで、私はどれ程恩恵を蒙っているか計り知れないものがあります。もっとも、私はまだまだ未熟な人間ですから、それらの事を完璧に実行することはできないでいます。でも、常にそれらの事を心に留めて、なんとか努力をして行けるのは、ありがたいことだと感謝をしています。

卒業生のみなさん、いい出会いを心から祈っています。

スキー教室を終えて

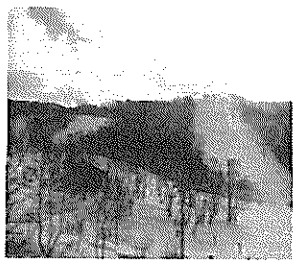
二年学年主任　久保山　十一

二年生にとっては最大の行事ともいえる修学旅行「スキー教室」が無事終りました。

二月五日、小倉駅発八時二十三分の新幹線で四泊五日の旅に出発しました。JR・バスとも交通機関は順調で、午後八時すぎに予定通り志賀高原丸池スキー場「ホテルニュー志賀」に到着しました。夕食、入浴、スキー用具のチェックと、あわただしい一日でした。消灯・就寝二十三時三十分。長野駅に降り立った時には小雨が降っていて、路面には雪もなく、肝心のスキーは大丈夫なのかと、少々不安を感じたものでした。

明けて六日はスキー教室の開校式。昨夜の内に雪が降りゲレンゲのコンディションも上々でした。そしていよいよ実習開始です。ほとんどの生徒にとって初めての体験です。スキー靴をはいて雪の上を歩くだけでもおっかなびっくりで、派手な悲鳴の連続でした。

かくして三日間のスキー実習がはじまりました。インストラクターの指導も熱心だったし、教わる生徒たちもそれに応えてひたむきでした。一人一人の真剣なまなざしを感銘深く眺めたものでした。上達の早さにも驚かされましたが、三日間で全員が基本的な技術を習得しました。リフトを利用し、雪の斜面を滑降しながら、スキーの魅力を満喫したことと思います。ただ、発熱やねんざなどで三日間通して実習できなかった人も数名いました。残念だったろうけれど、信州の自然に触れたことをも収穫の一つとしてほしい、と思っています。



夜の内に雪が降ってやわらかく、新しい雪がゲレンゲを覆い、日中の天気は比較的平穏という、実に恵まれた三日間でした。

二月八日実習の最終日、閉校式でスキー実習をしめくくりました。生徒たちの未練気な表情が印象的でした。

ともあれ、あっという間に終った感じですが、大きな事故もなく、全員無事に帰着したのを何よりと思っています。

四泊五日の楽しいスキー教室でしたが、反省すべき点がないわけではありません。そのいくつかを挙げてみると第一に、中央本線名古屋・長野間は往復とも臨時急行を利用、一般客が乗車しないので気楽だという利点はあるが、反面、行き帰りとも午後八時近くになり、時間的におそすぎるという難点がある。せめて七時頃までにはホテルに着き、小倉駅に帰着できるようにしたいものだと思った。第二に、スキー実習の二日目が日曜日にあたり、一般のスキー客が多くて、ゲレンデでの練習、リフトともに行動を制約されたのが残念だった。日程を組む際に工夫が必要だと思う。第三は生徒の行動に関する点だが集団で行動する場合は特に時間を守ることが何よりも大事になる。

宿泊研修でも学んだ通り、五分前の精神を活かしたいものだ。その他、各部屋の使用状況（清掃・整理も含めて）、入浴に関連するマナー、自室、集会など、入室する際のスリッパの処理、等々。自覚を促したいことは多い。集団が快適な生活を送るためには個人が全体のことを意識して行動する配慮が望まれる。自分さえよければという考えは厳に慎まねばならない。

以上、大ざっぱな修学旅行の記になりましたが、少しでも次回に資するところがあれば幸甚です。

寒稽古を終わって

一年学年主任　西原　功

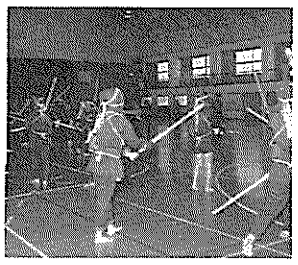
若高恒例の寒稽古は、今年度は少し期間が繰り上がって、一月二十七日から三十日までの四日間、体育館・運動場を主会場に、一部ロードを交えて実施され一件の事故もなく無事終了致しました。参加生徒四六八名、出席率九七・七六パーセント。まずまずの成績だったと思います。改めて保護者の皆さまの御協力に感謝致します。

ある口の悪い先生は、この寒稽古は、生徒を鍛えるための寒稽古というよりは、父母・職員に気合いを入れるための寒稽古のようなものだ、と言っておりましたが、僅か四日間とは言え、朝まだまっ暗いうちからの食事の用意、最寄りの駅・バス停までの送り届け等、本当にお疲れさまでございました。

所で、今年度から、従来とは異なったやり方が二、三採り入れられていたことに、皆さんお気付きだったでしょうか。

その第一は、寒稽古が「学校行事」の一部として、はっきり位置づけられたということです。従来、寒稽古そのものは毎年実施され、それなりの成果は収めておりながら、「学校行事」として位置づけることが出来ず、学校主催とも体育科主催ともとれる形で、結局は多くの先生方の好意に支えられて実施されておりました。そのため、日頃より一時間以上も早く出勤しながら、帰りの時間は他の先生と一緒、ということで、何となく割り切れない気持ちがして、今一つ意気が揚がらなかったのですが、今年度からはこのもやもやも解消され、すきっとした気持ちで四日間を過ごすことが出来ました。

第二の変化は、柔・剣道の分離です。従来は授業に準じて、同じ体育館一階で柔・剣道の寒稽古を実施していたのですが、今年度から、柔道は一階で、剣道は二階でと、全くの別会場にしてしまったのです。おかげで、互いに相手の進行状況や騒音に邪魔されることなく、伸びのびした気持ちで稽古に専念することが出来たようです。もっとも、二階の方は板目が粗く、すり足、踏み込みなどが思い切って出来なかったという苦情も一部にはあったようですが――。ついでながら、これに伴って女子の縄跳びがなくなったのも一つの変化と言えるでしょう。



さて、最後に寒稽古を終わっての感想ですが、正直な所、運動部関係の選手諸君の、走力の不足がやけに目立ったことです。

サッカー・ハンド・ラグビーと言えば県大会の常連クラブのはず。所が私の目にこれはという感じで映ったのはサッカー部のE君だけ。他はすべて不合格の感じでした。

常々、すべてのスポーツの基本は走ることにあり、と考えている私にとって、これはショックでした。どうか運動部の選手諸君、どのクラブにもシーズン・オフがあるはずですから、その期間を利用して徹底的に走りこんで下さい。そして七、八十分を走りぬく持久力と、一瞬の爆発が勝敗を左右するダッシュ力とを、是非身につけて下さい。そして始めて、先輩たちの後が継げると思います。健闘を祈ります。

なつかしくなる校歌

三年十組　図師竜也

突然、能古島という博多湾にある島にキャンプに行く事になった。メンバーは、卒業して四～五年になろうかという先輩ばかりである。しかし、僕のいる部活動とまだつながりがあって、よく学校に来るので全く顔を知らないわけでなかった。

先輩方の話

先輩方の話を聞くと、夏休みなどに集まって、山とか海に行くということだった。その為か全員どこでも寝ることができるらしい。実際、能古島では夜砂浜で寝て、朝起きると寝返りを打って全身砂だらけだった。

それだけではなくて、彼らは料理についてもエキスパートなのである。地元の飲食店でアルバイトをしていた先輩がいるためかどうかはわからないが、キャンプ当日の夕食はビーフシチューであった。

ところで普通だと夕食を終えた後にはキャンプファイアーという月並な行事が待っているのだけれど、先輩方の場合は違っていて突然、「校歌を歌おう。」と言って、大声を張り上げて歌い始めたのである。僕はとてもじゃないけど恥ずかしくて、一緒に歌えなかった。すると先輩が、「現役の頃は俺も恥ずかしくて歌わんやったけれど、卒業すればわかるようになるよ。今は校歌がなつかしい。」と、言ったのである。そんなものだろうかとその時は思ったけれども、今思えば何となくその気持ちがわかるような気がするのである。それと同時に、五年後あたりで自分が校歌をなつかしく思ったりするのだなと考えたりすると、何だか妙な気になったのであった。

突撃レポート Vol. 3

◘ラグビー部

Q1　まず部員数は。

A1　25人です。

Q2　顧問の先生は。

A2　曽根先生です。

Q3　顧問の先生について一言。

A3　優しくていい先生です。何も言えません。

Q4　練習メニューは。

A4　いろいろ……。走るのみ……（笑）。

Q5　部の雰囲気は。

A5　楽しくやってます。

Q6　今後の目標は

A6　まず、春の大会の県大会に出場する事です。

Q7　それでは、最後に一言お願いします。

A7　燃えてます！静かな口調で答えてくれましたが、その雰囲気から勝ちたいという気持ちが、ひしひしと伝わってきました。今後を期待しています。

三年生のみなさん御卒業おめでとうございます

二年一組　瀬元　規子

晴れやかな門出、卒業、本当におめでとうございます。

入学時の若高坂の桜の美しさ、一点を競うため共に汗を流し夢中になった体育祭、友達の作品に感激をした文化祭、大自然の中で友情を確かめ合ったスキー教室などどれを取ってみても、学生ならではの貴重な体験。

しかし、これからは進学・就職どちらの道を選んでも厳しい社会での生活が先輩方を待っています。

今までの様に、何度も同じ注意をして下さる方も、わがままを許して下さる方もいなくなり、解放感を感じる事があるでしょう。

しかし常に責任ある行動をとるべきだという事を心にとめる必要もあるはずです。若高生としての素晴しい体験をもとに、これからは、沢山の夢を胸に、いかなる困難にも立ち向かう事の出来る強い精神を持つ、そのような良いお手本となる、私達後輩への先輩でいて下さい。

先輩方が卒業されると、いよいよ私達の出番となります。これまで先輩方が大切に残して下さった良い伝統を、絶やす事なく発展させるため、今まで以上、努力していこうと思います。

それでは最後になりましたが、お体に気をつけて、立派な社会人へと力強くはばたいて下さる事を祈っています。

二年一組　満村　由紀

三年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

先輩方にとって、この若松高等学校での三年間は、勉強に運動にと、全力投球してこられ、とても有意義な高校生活を送られたことと思われます。

これから先、それぞれの進路に向かって進んで行かれる上で、様々な難壁に突き当たることと思いますが、この若松高等学校で学んできた経験を生かし、それを乗り越えられるよう努力して下さい。

先輩方が残されて行った足跡を、私達在校生は、壊さないよう努力しながら、一歩一歩追って行こうと思います。どうか私達のことを忘れずに、温かく見守っていて下さい。

伝統ある若松高等学校の卒業生であるということを誇りにして、未来に向かってはばたいて下さい。

いつまでも、お元気で！

二年一組　稲田　良郁

その痩せこけた頬で、三年間、勉学や部活動に励んで来た先輩の方々、御卒業おめでとうございます。

これからの皆さんの進路は人それぞれでしょうが、その道の途中に転がる多くのひしめき合う困難を乗り越えて立派な人になって下さい。

思い起こせば、先輩方にはいろいろとお世話になりました。体育祭や文化祭、部活動でも、先輩の指導の下で、学ぶものがたくさんありました。振り返ってみると、懐しい思い出ばかりです。実際、私の部には、先輩がいないので、ここまで書いた事には実感が湧かないのですが、先輩方を見ていると、こういう気がしました。

そして、最後ですが、一言、二年間、いろいろとありがとうございました。月並みですが、これから頑張ってください。

卒業を祝って

生徒会会計　杉岡奈津子

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

卒業してみなさんは、進学や就職という、それぞれの道に歩きはじめるでしょうが、本当にがんばらなくてはならないのは、今からだと思います。高校時代よりもっと苦しいことがたくさんあるかもしれません。

高校卒業とは、もう大人だということを意味しているんじゃあないんでしょうか。すぐに成人式をむかえる時期になるでしょう。本当にいろいろと大変だと思いますが、大人への第一歩としてがんばって下さい。

行事予定

3月8日	同窓会入会式
3月9日	卒業式
3月11日	学力検査
3月18日	合格者発表
3月19日	終業式
3月22日	オリエンテーション
3月23日	合格者実力考査
3月29日	転入考査
4月6日	新入生クラス発表
4月7日	始業式
	入学式

編集後記

今回は、原稿が多くて、原稿をたのんだのに紙面の都合で掲載していない原稿がありました。いっしょうけんめい書いてくれたのにどうもすみませんでした。

次回はこんなことがないようにしますので。

《編集長》